

2024年3月19日作成

第1.0版

2022年5月26日の医師・患者関係学講座の授業を受講し、レポート課題
を提出した医学部4年生の方々
臨床研究へのご協力をお願い

当講座では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、2022年5月26日の
医師・患者関係学講座の授業を受講された学生さんのレポートを使用させていただきます。
この研究のために、新たに調査などを行うことはありません。すでに、授業の際にレポート
の研究使用に関する包括的同意書に署名をいただいておりますが、研究内容の詳細は説明し
ておりませんので、オプトアウトといたします。ご自分のレポート情報を研究に用いられた
くないとお考えの方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた方のレポート情報
は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、不利益が生じる
ことは一切ありません。

研究課題名

医学教育における患者の病の語りおよび医学生自身の病の体験の振り返りを用いた
教育効果に関する研究
—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) による医学生の
受講体験の質的分析

1. 対象となるかた

2022年5月26日の医師・患者関係学講座の授業を受講し、レポート課題を提出した
奈良県立医科大学医学部4年生。

2. 研究責任者

奈良県立医科大学 医師・患者関係学講座 石井 均

3. 研究の目的と意義

近年、個人中心の医療を目指す中で、医学教育では、個人中心の視点や医師として必要な人
間性を涵養する重要性が高まっている。これまで、Narrative Medicine の考え方を土台と
して、患者講師の講演や、患者が体験を語った動画や手記など、患者の語りを教育に用い、
その効果が研究されている。しかし、これらの先行研究では看護学生や薬学生を対象にした
ものが多く、医学生を対象としたもので、質的研究として詳細に分析された研究は少ない。

一方、患者の立場に立つということを考える上で、一番身近にある素材は、自分自身ない
しは身近な人が患者になった体験だと考えられるが、医学教育という公の教育現場におい

て、医学生が自身の病いの体験を振り返り、その体験の意義を医学教育の観点から考察した研究報告は見られない。本研究は授業レポートを分析することによって医学教育への意義を明らかにする。

4. 研究の方法

学生による授業体験レポートを修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) を用いて分析した結果得られた、概念、カテゴリー、カテゴリーの関係を示した図を評価項目とする。

5. 使用する情報

2022年5月26日の医師・患者関係学講座の授業レポート。レポートを回収後、研究用のナンバーに置き換え、対応表を作成する。

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長 細井 裕司

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2025年3月31日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる学生さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学 医師・患者関係学講座 石井 均

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：hits-1@naramed-u.ac.jp